



2020年12月16日

各位

会社名 バルミューダ株式会社
代表者名 代表取締役社長 寺尾 玄
(コード番号：6612 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 佐藤 雅史
(TEL：050-3733-2595)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日2020年12月16日に東京証券取引所マザーズに上場しました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお申し上げます。

なお、2020年12月期（2020年1月1日～2020年12月31日）における当社グループの業績予想は、次のとおりです。

【連結】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2020年12月期 (予想)		2020年12月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年12月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売上高		12,331	100.0	13.7	8,097	100.0	10,849	100.0
営業利益		1,274	10.3	18.9	919	11.4	1,071	9.9
経常利益		1,206	9.8	15.1	891	11.0	1,047	9.7
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益		826	6.7	30.6	603	7.5	632	5.8
1株当たり当期 (四半期)純利益		126円16銭		92円82銭		97円38銭		
1株当たり配当金		0円00銭		—		0円00銭		

(注) 1. 当社は、2019年12月5日付で、普通株式1株につき100株の株式分割を行っていますが、2019年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しています。

2. 2019年12月期(実績)及び2020年12月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出しています。

3. 2020年12月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募予定株式数(1,235,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大215,200株)を考慮していません。

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(並びに訂正事項分)をご覧ください。また、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

【2020年12月期業績予想の前提条件】

1. 当社グループの見通し

当社グループは、当社及び連結子会社（BALMUDA Europe GmbH）の2社で構成されています。製品の企画、デザイン、設計、開発、国内外での製品等の販売を軸に、「家電事業」の単一セグメントで事業を展開しているファブレス（自社工場を保有せず、外部の製造工場に製品の生産を委託する）メーカーです。

「卓越した創意工夫と最良の科学技術によって、どこにもなかった素晴らしい方法を創出し、人々の役に立つ」という企業理念（The Vision）のもと、家電という道具を通して、素晴らしい体験を社会にお届けすべく事業活動に取り組んでいます。

現在の日本経済を取り巻く環境は、米中貿易摩擦の長期化や、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による内外経済の停滞等、先行きが不透明な状況となっています。

このような経済環境の下、空調関連やキッチン関連等の家電製品を中心に展開していますが、最も大切なことは「物より体験」であると考えて、製品開発に取り組んできました。今後も、心躍るような素晴らしい体験をお届けできる製品やサービスを提供していくため、新たな技術開発やデザイン性の追求、体験を訴求していくための積極的なプロモーションの実施を継続し、日本だけでなく、アジア地域、欧米等においても積極的に展開していきます。

今後、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のさらなる拡大により、サプライチェーンの世界的な停滞による部材調達難や活動制限による工場停止等、製品供給面において大きな支障等が発生した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。現時点でその影響を合理的に把握することは困難であるため、業績予想には織り込んでいません。

このような状況下において、2020年12月期の業績は、売上高12,331百万円（前期比13.7%増）、営業利益1,274百万円（前期比18.9%増）、経常利益1,206百万円（前期比15.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益826百万円（前期比30.6%増）と前期比で増収増益を見込んでいます。

2. 業績予想の前提条件

（1）売上高

売上高については、地域別に、製品毎の販売実績、主要な販路の在庫状況と需要意向のヒアリング等に基づく販売予測により策定しています。

国内売上高予算の策定にあたっては、過去の販売実績や各販路の在庫状況等から、製品毎、販路毎に数量と金額を積み上げて策定しています。また、今後投入予定の新製品については、これまでに販売した製品（同価格帯、製品カテゴリー等）の実績、展開予定の販路及び展開店舗数をベースに数量と金額を予測し、積み上げて策定しています。

海外売上高予算の策定にあたっては、北米以外の地域については、各代理店の在庫状況や販売予測に基づく当社グループへの発注計画を基にして、数量と金額を積み上げて策定しています。また、今期より新たに進出した北米については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響等から、販売予測が見通しにくい状況ですが、デジタルマーケティングを中心に認知の拡大を図ってきており、これまでのECを中心とした販売実績に基づく販売予測により策定しています。

なお、2020年12月期第3四半期累計期間の実績については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による巣ごもり需要の拡大を受け、国内売上高を中心に堅調に推移し、売上高は8,097百万円となりました。2020年12月期の業績については、第3四半期連結累計期間から引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による巣ごもり需要が一定程度継続すると想定されること、これまで取り組んできたBALMUDAブランドや主要製品の認知拡大及び新製品の投入により、前期比で増収となる見込みです。その結果、2020年12月期売上高は12,331百万円（前期比13.7%増）を想定しています。

（2）売上原価、売上総利益

売上原価については、主な構成要素である製品原価金額の算定にあたり、各製造委託先より製品毎の原価

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）をご覧ください。また、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

見通し（材料市況や原価低減要因等）をヒアリングし、製品毎の売上数量に乗じて算出したものに、為替影響、減価償却を加味して策定しています。その結果、2020年12月期の売上原価は7,067百万円（前期比6.2%増）、売上総利益は5,263百万円（前期比25.6%増）を想定しています。なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の売上総利益は3,534百万円となっています。

（3）販売費および一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費については、主に広告宣伝費、販売促進費、試験研究費、人件費、その他経費によって構成されています。広告宣伝費及び販売促進費については、主に国内と北米におけるBALMUDAブランド及び製品認知の拡大等、事業規模の拡大を進めているため増加傾向にあります。また、試験研究費については、新製品開発や、次なる成長に向けた新製品開発に繋がるシーズの発掘に必要なコストを見積もって算出しています。さらに、人件費についても、開発、販売、管理体制のさらなる確立のために人材の採用を進めることで、企業運営、ガバナンスの強化を図っており、人員計画のもと、一定のコスト上昇を予算として計上しています。

2020年12月期の販売費及び一般管理費については、国内、北米を中心としたBALMUDAブランド及び製品認知の拡大、新製品の販売拡大に向けた広告宣伝費の増加（前期比34.8%増）及び販売促進費の増加（前期比36.8%増）、将来の新製品開発に繋がるシーズ発掘のための試験研究費の増加（前期比60.1%増）及び体制強化に向けた増員による人件費の増加（前期比10.0%増）を見込んでおり、それらを主な要因として3,988百万円（前期比27.8%増）を想定しています。その結果、2020年12月期の営業利益は1,274百万円（前期比18.9%増）を想定しています。

なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の営業利益は919百万円となっています。

（4）営業外収益・費用、経常利益

営業外収益、営業外費用は、原則として当期において発生が見込まれるものについて計上しています。営業外収益は、預金の受取利息等ですが、金額は0百万円と僅少です。また、営業外費用については、上場関連費用17百万円のほか、為替差損益、借入に係る支払利息やコミットメントライン組成に係る金融費用を見込んでいます。その結果、2020年12月期の経常利益は1,206百万円（前期比15.1%増）を想定しています。

なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の経常利益は891百万円となっています。

（5）特別利益・損失、親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益は、利益計画策定時に発生が見込まれるものについて計上しています。また法人税額等については、利益計画に基づいて法人税等を算出し、併せて税効果会計による影響額を加味して算出しています。第3四半期連結累計期間の実績については、特別利益として、BALMUDA The Toaster 無償製品交換プログラム実施に係る生産物回収費用保険の受取保険金14百万円が発生しています。

その結果、2020年12月期の親会社株主に帰属する当期純利益は826百万円（前期比30.6%増）を想定しています。

なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は603百万円となっています。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なる場合があります。



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年12月16日

上場会社名 バルミューダ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6612 URL https://corp.balmuda.com
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)寺尾 玄
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)佐藤 雅史 (TEL)050-3733-2595
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	8,097	—	919	—	891	—	603	—
2019年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 603百万円 (—%) 2019年12月期第3四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	92.82	—
2019年12月期第3四半期	—	—

(注) 1. 2019年12月期第3四半期においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年12月期第3四半期の数値及び2020年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。

2. 当社は、2019年12月5日付で普通株式1株につき、100株の割合で株式分割を行っており、1株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式が非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,890	2,335	39.7
2019年12月期	5,070	1,732	34.2

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 2,335百万円 2019年12月期 1,732百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,331	13.7	1,274	18.9	1,206	15.1	826	30.6	126.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	6,500,000株	2019年12月期	6,500,000株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	—株	2019年12月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	6,500,000株	2019年12月期3Q	—株

- (注) 1. 当社は、2019年12月5日付で普通株式1株につき、100株の割合で株式分割を行っており、発行済株式数（普通株式）は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。
2. 2019年12月期第3四半期においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年12月期第3四半期の期中平均株式数（四半期累計）は記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来性予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内外における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響の長期化に伴う景気の悪化が続いており、極めて厳しい状況にあります。雇用情勢は弱さが増しており、景気の先行きについては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の防止策を講じながら、社会経済活動のレベルの段階的な引き上げが期待されるものの、国内外の経済をさらに悪化させるリスクなどにより、引き続き個人消費は不透明な状況が見込まれます。

このような環境の中、当社グループは「卓越した創意工夫と最良の科学技術によって、どこにもなかった素晴らしい方法を創出し、人々の役に立つ」という企業理念（The Vision）を掲げ、家電という道具を通して、心躍るような、素晴らしい体験を世の中にお届けしたいとの考えのもと、事業を運営しています。

国内販売については、外出自粛等の影響による巣ごもり需要から堅調に推移し、2020年6月には、楽曲に合わせて輝くLEDユニットを搭載したワイヤレススピーカー「BALMUDA The Speaker」を発売し、製品ラインナップの拡充を行いました。

海外販売については、昨年半ばより悪化していた韓国への輸出環境は改善傾向にあるものの、当第3四半期連結累計期間における輸出額は前年同期を下回りました。一方、海外における新たな展開地域として、2020年4月から北米における販売を開始しており、積極的な事業拡大を進めました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高8,097,797千円、営業利益919,255千円、経常利益891,887千円、親会社株主に帰属する四半期純利益603,333千円となりました。

なお、当社グループは家電事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しています。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は5,890,073千円となり、前連結会計年度末と比べて820,013千円増加しました。流動資産は、5,207,183千円（前連結会計年度末比750,421千円増）となり、これは主に、利益剰余金及び借入金の増加により現金及び預金が1,048,162千円増加、売上債権の回収により売掛金が137,403千円減少、製品販売の増加により商品及び製品が79,712千円減少したことなどによるものです。固定資産は、682,890千円（前連結会計年度末比69,592千円増）となり、これは主に有形固定資産（製品に係る金型）の取得によるものです。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は3,554,172千円となり、前連結会計年度末と比べて216,550千円増加しました。流動負債は、2,999,714千円（前連結会計年度末比385,747千円増）となり、これは主に短期借入金が400,000千円増加したことによるものです。固定負債は、554,458千円（前連結会計年度末比169,197千円減）となり、これは長期借入金が減少したことによるものです。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は2,335,901千円となり、前連結会計年度末と比べて603,463千円増加しました。これは主に、利益剰余金が603,333千円増加したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の業績予想については、本日公表しました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,248,407	2,296,570
売掛金	1,802,649	1,665,245
商品及び製品	1,001,023	921,311
原材料及び貯蔵品	208,374	177,301
その他	196,306	146,754
流動資産合計	4,456,762	5,207,183
固定資産		
有形固定資産	316,532	401,877
無形固定資産	106,833	128,706
投資その他の資産	189,931	152,305
固定資産合計	613,297	682,890
資産合計	5,070,060	5,890,073

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,057,980	1,038,807
短期借入金	150,000	550,000
1年内返済予定の長期借入金	406,068	394,804
未払法人税等	173,831	174,629
賞与引当金	60,437	38,542
製品保証引当金	216,584	276,314
製品自主回収関連損失引当金	43,794	—
その他	505,269	526,615
流動負債合計	2,613,966	2,999,714
固定負債		
長期借入金	723,655	554,458
固定負債合計	723,655	554,458
負債合計	3,337,621	3,554,172
純資産の部		
株主資本		
資本金	53,000	53,000
資本剰余金	50,000	50,000
利益剰余金	1,628,123	2,231,456
株主資本合計	1,731,123	2,334,456
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,314	1,444
その他の包括利益累計額合計	1,314	1,444
純資産合計	1,732,438	2,335,901
負債純資産合計	5,070,060	5,890,073

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	8,097,797
売上原価	4,563,587
売上総利益	3,534,209
販売費及び一般管理費	2,614,954
営業利益	919,255
営業外収益	
受取利息	88
受取配当金	1
雑収入	331
営業外収益合計	421
営業外費用	
支払利息	10,959
為替差損	14,806
雑損失	2,023
営業外費用合計	27,788
経常利益	891,887
特別利益	
受取保険金	14,549
特別利益合計	14,549
税金等調整前四半期純利益	906,436
法人税、住民税及び事業税	267,623
法人税等調整額	35,479
法人税等合計	303,103
四半期純利益	603,333
親会社株主に帰属する四半期純利益	603,333

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	603,333
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	130
その他の包括利益合計	130
四半期包括利益	603,463
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	603,463
非支配株主に係る四半期包括利益	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。